

環境先進国

ドイツから学ぶ

吉田 浩巳

86



環境問題は地球規模の問題なので世界各国の共通認識と取り組みが必要です。

昨年(2012年)の11月26日から12月8日にかけてカタールのドohaにおいて国連気候変動枠組条約第18回締約国会議(COP18)が開催されました。

この会議は、大気中の温室効果ガスの濃度を安定化させることを究極の目標として1992年に採択された「国連気候変動枠組条約」(United Nations Framework Convention on Climate Change)に基づき、1995年から毎年開催されています。

今回は第18回目を数えます。日本からは環境分野の

書(Kyoto Protocol)が採択されたことに基づき2005年から毎年、京都議定書締約国会合も開催され、第8回目の会合もCOP18と同時に開催されました。

COP18は、2011年に南アフリカのダーバンで開催されたCOP17において採択された「ダーバン合意」に盛り込まれている、2020年からの新しい国際枠組みについての合意を2015年までに作るという内容を受けて、最初の一步を踏み出す第1回目の会議として注目されています。

特に、特別作業部会の下で2015までの作業計画を作ることや、必要な削減

た。作業計画の作成においては、今年3月1日までに提出いただく各国の意見書をもとに今後も議論を続けるということになっていきます。

経済を中心に世界各国の国情が違い、特に先進国と途上国の間にはさまざまな規制と経済発展という点において考え方において依然として大きな開きがあります。特に環境分野においては急な進展や合意は望めないことは過去の会議の経緯を見ても予想できますが、リーダーとなる国が強力なリーダーシップを発揮していただき、スピード感をもって結果を出して欲しいものです。

日本は、COP18において発電効率や耐久性など世界最高水準の日本製の太陽

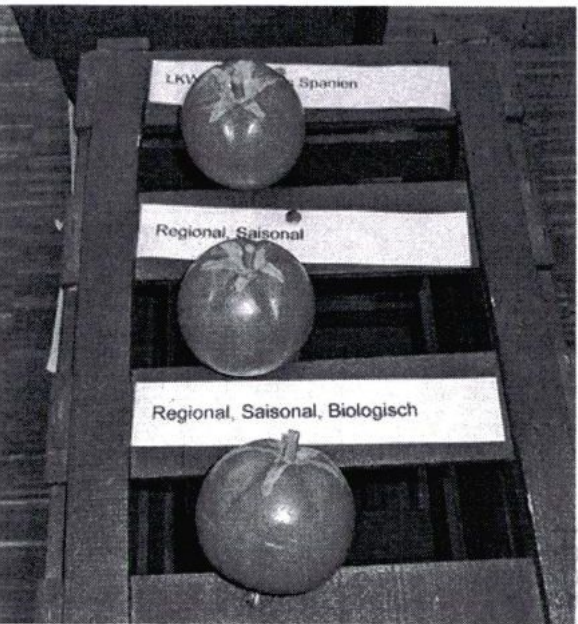
日本のエネルギー政策を問う③

一歩踏み出すCOP18

国のトップである環境大臣らが参加しています。また、1997年に先進国の削減目標等を定めた「京都議定

量と各国が誓約した削減総量との大きな格差を埋めるための方策を打ち出すことなどが大きなテーマでし

光パネルをはじめ、環境に関する日本の最先端の技術を世界に示すことが出来ることや、低酸素と経済成長の両立を推進するために世界のCO2排出削減量を日本の削減目標達成に交換できる「2国間オフセット・クレジット制度」を呼び掛け、モンゴルとは合意し共同声明の署名に至ったことや、バンクアラブとも協議において大筋の合意に至ったことなどは大きな成果だと言えるのではないのでしょうか。



環境教育で使用している教材。原産地からの距離により、輸送のエネルギー消費量を加え、重さを変えているトマトの模型

(社団法人まちづくり国際交流センター理事長)

第2、第4、第5木曜

日掲載